

2018 年 2 月 5 日

株式会社 ADI.G

## 創業 60 周年、日本初の自社デンタルショー開催商社 地元・金沢でエキシビション開催 地域に根づいて 52 回目 石川産業展示館で 3 月 3 日・4 日

歯科用医療関連製品の開発・販売を行う株式会社 ADI.G（読み：エイディアイドットジー、本社：石川県金沢市、代表取締役社長：浅野弘治）は、石川県産業展示館で、プライベートデンタルショー『エイディアイドットジー デンタル エキシビション A D I . G DENTAL EXHIBITION 2018 in KANAZAWA』を 3 月 3 日・4 日に開催します。



約 50 年前、日本初のプライベートデンタルショー



2017 年開催の様子。多くの歯科関係者でにぎわう

### 最先端の歯科医療機器が一同に集まる展示会

当社は、1957 年、初代社長の浅野弘明が「浅野歯科商店」を創業したことから始まりました。初代社長は、10 年後の 1967 年に、金沢市の社屋で、全国初となるプライベートデンタルショー（自社主催の歯科用医療関連製品の展示会）を開催しました。当時は、東京や大阪まで行かないと最新の機材等を見られる場がなかったため、地元の歯科医療発展のために貢献したいと考えたことがきっかけです。このプライベートデンタルショーは、石川県、富山県、福井県などから多くの歯科関係者が集まって好評を博し、年に 1 度の定期開催が根づいたのです。

浅野歯科商店は、1979 年に株式会社浅野歯科産業になり、2015 年に現在の株式会社 ADI.G へと変わりました。プライベートデンタルショーも『ADI.G DENTAL EXHIBITION』に改称し、時代のニーズを先取りした進化を遂げ、今年で 52 回目の開催を迎えます。

### ADI.G DENTAL EXHIBITION 2018 in KANAZAWA 開催概要

日時 2018 年 3 月 3 日（土）15:00～20:00、4 日（日） 9:00～16:00

場所 石川県産業展示館 2 号館  
石川県金沢市袋島町南 193

内容 歯科業界を牽引する約 80 社が出展し、最先端の歯科医療機器の展示のほか、外部講師による特別講演を開催します。

メディアの方の取材も受け付けています。広報事務局までご連絡お願いいたします

## 特別講演

法務面、スキル面など、実践的な2つの特別講演会を開催します。  
いずれも定員は100名で、受講費は1名あたり3,000円（税込）です。

① 3月4日（日）10:00～11:30

講師：小畑真先生（弁護士／歯科医師）

内容：歯科医師×弁護士が語る歯科医院のリーガルマネジメント  
ダブルライセンスを持つ講師が、歯科医院にまつわる法務を、経験や事例を交えてわかりやすく解説します。

対象：歯科医師／歯科技工士／歯科衛生士／歯科助手

② 3月4日（日）12:30～14:00

講師：片山章子先生（歯科衛生士）

内容：歯を守るメンテナンスプログラムを考える

対象：歯科医師／歯科衛生士／歯科助手／学生



多数の歯科関係者でにぎわう



特別講演会は毎回満員に

## 2017 年に参加されたお客様の感想

- ◆業界の最新設備機器が一同に集まる会場なので、毎年楽しみにしています。（40代歯科医師）
- ◆会場全体が明るく、予防製品から大型機械まで最新のトレンドがわかりやすいので、毎年楽しみにしています。（30代歯科医師）
- ◆毎年、有名な外部講師を招いてくれるので、わざわざ都会に行かなくても、業界の最新情報を聞くことができるととてもためになり、モチベーションがあがります。（20代歯科衛生士）
- ◆最新の機械・材料を実際に手にとって確かめることができるので、間違いのない買い物ができています。毎年このイベントを楽しみにしております。（40代歯科技工士）

### 【会社概要】

社名	株式会社 ADI.G（エイディアイドットジー）
代表	代表取締役 浅野弘治
本社所在地	石川県金沢市浅野本町1丁目10番10号
ホームページ	<a href="http://adig.jp">http://adig.jp</a>
創業	1957年2月
創立	1974年8月
資本金	8,000万円
社員数	150名
事業内容	歯科医療用器械・器材・材料・薬品等の開発および販売 歯科医院用クラウドサービスの開発および販売 歯科医院の開設、改装プロデュース（設計・施行管理） 各種講演会・研修会の企画開催 医療・経営関連各種コンサルティング業務 UNDER ARMOUR® Armourbite®の日本における製造販売 BioGaia社「プロバイオティクス製品」の日本国総代理店

<本件に関するお問い合わせ先>

ADI.G 広報事務局

TEL：03-5411-0066 FAX：03-3401-7788 E-mail：pr@real-ize.com

担当： 毛利（携帯：080-9874-4857）

## 参考資料① ADI.G の活動

株式会社 ADI.G は、常に、日本初・歯科業界初の新しいことに挑戦し続けてきました。今後も、従来の歯科領域にとらわれず、事業を拡大してまいります。

### 【歯科用クラウドサービス】

当社は、2004 年に、歯科業界初のクラウドサービスの提供をはじめました。

クリニックのワークフローの効率化、オートメーション化を進め、より品質の高いサービスを患者さんに提供できる環境をつくるため、多くのサービスを提供しています。

カルテ、予約、スタッフのタイムスケジュールのほか、LINE を利用して患者様とつながるコミュニケーションツールや、クラウド会計ソフト freee、各種 X 線システムなど、様々なサービスがひとつのクラウドで連携されます。蓄積されたデータは、クリニック経営改善のために分析され、行動指標が明確になります。

### 【アーマーバイト】

米国のスポーツ用品メーカー「アンダーアーマー社」が開発したスポーツ用のマウスピースです。



歯の保護を目的とした従来のマウスピースと異なり、歯の食いしばりを抑えて人間が本来持つ潜在能力を引き出すという、まったく新しいコンセプトに基づいています。世界中のトップアスリートに愛用されており、日本では当社が製造販売を独占して行っています。

### 【ロイテリ菌】

当社は、予防先進国スウェーデンの「バイオガイア社」と提携し、口腔内菌質を管理する新技術「バクテリアセラピー」を広く発信してきました。同社が国際特許を持つ乳酸菌「ロイテリ菌」を配合した『トータルヘルスプログラム』シリーズ 9 種を共同開発し、2015 年に発売しました。2017 年には『医療機関専用ロイテリ菌』シリーズ 2 種を発売、さらに今春をめどに同シリーズ 3 種を発売予定です。口内菌質を改善し全身の健康につなげるロイテリ菌は、全国の歯科医院に支持されています。



## 参考資料② ADI.G の歴史

### 【主な年表】

1957 年 2 月 11 日、初代社長浅野弘明が、石川県羽咋市に浅野歯科商店を創業

1961 年 石川県金沢市に移転

1967 年 社屋新築、日本初のプライベートデンタルショーを開催

1972 年 現在地に社屋を新築移転

1974 年 法人に組織変更

1979 年 株式会社浅野歯科産業に社名を改める

1982 年 歯科用コンピュータシステムの開発着手

1985 年 歯科用コンピュータシステム販売開始

歯科業界初の入力時リアルタイム自動算定システム、  
通信サポートシステムを発表

1988 年 歯科業界初の同時処理システムを発表

1991 年 歯科業界初のテレサポートシステムを発表

1999 年 現社長の浅野弘治が就任

2015 年 1 月 15 日、株式会社 ADI.G に社名を改める

60 年の歴史の中で、横浜にも本社を構え、

北海道から九州まで全国に 13 支店を設けています。

(札幌、千葉、柏、東京、横浜、富山、金沢、福井、名古屋、京滋、大阪、広島、福岡)



地元で最新機材が見られ、画期的だった



祝賀会には、金沢らしく芸妓さんの姿も

### 【弁護士ではなく歯科用品商に】

初代社長の浅野弘明は、立命館大学法学部出身ですが「弁護士になるより事業をやってみたい」という想いから、在学中に特例販売業の資格を取得し、卒業と同時に浅野歯科商店を立ち上げました。歯科領域を選んだ理由は、まだ機械化されていなかった業界に、強い将来性とやりがいを感じたからです。業界につてがなかったため、取引先は自分自身で開拓し、石川県、富山県、福井県の約 160 軒の得意先を電車やバス、現地で借りた自転車などで回っていました。

### 【創業当初の苦労】

当時は自動車の時代ではなかったため、雪の多い北陸では、冬季は 2 週間から 1 カ月も営業ができませんでした。夏季は夏季で、台風により川が氾濫し、水害対応に追われて仕事にならないことも珍しくありませんでした。

また、創業から数年間は、歯科用品商組合に加入できず、大手メーカーの製品を取り扱えないなどつらいことも多くありましたが、正々堂々と商売を頑張り続けた結果、加入が認められました。

### 【プライベートデンタルショー開催の背景】

アメリカとヨーロッパへ歯科商社の視察に行ったことを機に「取引先の先生たちへ、最新機材を見られる展示会や、勉強の場を提供して役立ちたい」と考えました。帰国後、日本初のプライベートデンタルショーを開催し、新社屋にはショールームと研修室を設けました。当時としては画期的なことで、技術革新が求められる時流のなか、研修会には毎回多くの先生が参加されました。